



平成 23 年 8 月 11 日

各 位

## ガイアホールディングス株式会社

東京都新宿区西早稲田二丁目 18 番 18 号

(コード番号：3727 東証マザーズ)

代表者 代表取締役 鈴木 智也

問合せ先 取締役 伊藤 洋

電話番号 03-5286-8436

### 平成 23 年 12 月期第 2 四半期連結累計期間業績と前年同期業績との差異 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成23年12月期第2四半期連結累計期間における業績と前年同期（平成22年12月期第2四半期累計期間）の業績との差異について、下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績の動向等を踏まえ、平成23年2月14日に公表いたしました平成23年12月期の通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成 23 年 12 月期第 2 四半期連結累計期間業績と前年同期業績との差異

(平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 6 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期 純利益	一株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前年同期実績 (A)	4,479	△54	△61	171	1,689.31
今回発表実績 (B)	4,492	45	22	△160	△1,583.12
増減額 (B) - (A)	12	100	83	△331	—
増減率 (%)	0.3	—	—	—	—

#### 【差異が生じた理由】

平成 23 年 3 月 10 日に株式会社アニメインターナショナルカンパニー（以下「AIC」と言います）が当社の連結子会社になったことなどにより、コンテンツ・サービス等事業においては前年同期実績に比べて売上高が増加いたしました。一方で、ソフトウェア基盤技術事業においては、製品開発フェーズから拡販フェーズへと移行した結果、技術支援売上が減少したことなどにより、前年同期実績比で売上高が減少したため、連結業績で見ると売上高は微増となりました。

また、損益面では、ソフトウェア基盤技術事業において拡販フェーズに移行したことにより利益率の高い製品売上比率が高まり、さらにグループ全体を通してのコスト圧縮の取り組みも寄与し、営業利益及び経常利益ともに前年同期実績に比べて大きく増加いたしました。

その他詳細につきましては、本日開示予定の「平成 23 年 12 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」をご確認ください。

2. 平成 23 年 12 月期通期業績予想値の修正

(1) 連結業績予想数値の修正

(平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	連結当期 純利益	一株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	9,500	350	270	25	246.74
今回修正予想 (B)	10,885	413	380	59	582.22
増減額 (B) - (A)	1,385	63	110	34	—
増減率 (%)	14.6	18.0	40.7	136.0	—
(ご参考)前期実績 (平成 22 年 12 月期実績)	9,446	211	163	333	3,294.94

(2) 個別業績予想数値の修正

(平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	4,100	314	234	14	138.18
今回修正予想 (B)	3,998	396	355	115	1,134.83
増減額 (B) - (A)	△102	82	121	101	—
増減率 (%)	△2.5	26.1	51.7	721.4	—
(ご参考)前期実績 (平成 22 年 12 月期実績)	4,080	231	228	158	1,565.75

【修正の理由 (連結・個別)】

連結業績予想数値につきましては、平成 23 年 3 月 10 日に、アニメーションの制作・キャラクターライセンスビジネスを主要事業とする AIC が当社の連結子会社となったことなどにより、当初の予想より売上高、営業利益、経常利益、当期純利益ともに上回る見通しとなりました。

AIC を当社グループに迎えることで、今後急拡大する国内外のスマートフォン市場および広帯域無線網において、これまで以上に多種多様なコンテンツの配信やコンテンツ・サービスの供給が可能になりました。それと同時に、その土台となるソフトウェア基盤技術も同時に供給することで当社グループ全体の相乗効果につながるため、中長期的な市場優位性の早期獲得を見込んでおります。

個別業績予想数値につきましては、国内携帯電話市場における従来型携帯電話端末の出荷台数が当初の予想以上に減少することによる売上高への影響が見込まれる一方、収益面では、コスト削減効果などによって、営業利益、経常利益、当期純利益ともに当初の予想を上回る見通しとなりました。

※上記の予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予測数値と異なる場合があります。

以上